

図書館情報メディア系リサーチグループ 平成 25 年度報告書

提出日 平成 26 年 4 月 11 日

| | |
|---|-------|
| リサーチグループの名称 | |
| 情報プラクティス (iPractice) (Information Practice (iPractice)) | |
| リサーチグループ設置期間 | |
| 平成 25 年 8 月 ～ 平成 30 年 7 月 | |
| リサーチグループ構成員 | |
| 所 属 ・ 職 名 | 氏 名 |
| 図書館情報メディア系・教授 | 佐藤哲司 |
| 図書館情報メディア系・准教授 | 上保秀夫 |
| 図書館情報メディア系・助教 | 関洋平 |
| 図書館情報メディア系・准教授 | 高久雅生 |
| 図書館情報メディア系・准教授 | 手塚太郎 |
| 図書館情報メディア系・講師 | 松林麻実子 |
| 図書館情報メディア系・助教 | 松村敦 |
| 研究目的 | |
| <p>情報プラクティス (iPractice) リサーチグループは、情報メディア社会における情報実践の実態調査、認知および行動データ解析、支援システムの開発と評価を通して、知識情報利活用のベストプラクティスを探求することを目的とする。そのために、知識情報の利用者の文脈をより明確にした問題設定と、社会科学アプローチ、認知的アプローチ、工学的アプローチの密接な連携による問題解決を目指す。</p> | |
| 研究成果 | |
| <p>平成 25 年度は、合計 6 回の研究会を開催した（日程と主な内容の一覧は特記事項欄を参照のこと）。初年度ということもあり、まずは学術背景の異なる構成員の研究内容や手法を共有する意味も含めて、5 回の勉強会を開いた。内容は、主たる情報実践 (Information Practice) 領域が従来の情報行動研究から発展してきた経緯や、情報実践を研究する上で重要となる文脈や実践という概念モデルについて、さらにデータ収集手法としてライフログ研究や検索ログ分析について、そして応用事例として可視化の活用など、幅広く扱った。これらを踏まえて、6 回目の研究会では、より具体的な問題設定と活動計画を定めるために、長時間にわたるブレインストーミングを行った。来年度は、その内容を基に活動を進めていく予定である。</p> | |

代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等

研究会の開催日程と主な内容

- 第1回（2013年9月24日）
 - 情報行動から情報実践へ
- 第2回（2013年10月24日）
 - 文脈と実践に関するモデル
- 第3回（2013年11月19日）
 - ライフログGING
- 第4回（2014年1月22日）
 - ウェブ検索ログ分析
- 第5回（2014年2月20日）
 - データ可視化による協調作業の支援、学習状態のフィードバック
- 第6回（2014年3月14日）
 - 問題設定のためのブレインストーミング